



PTA等指導者人権教育研修会を開催しました



講 話

「不登校と多様な学びへのハッピーアドバイス」

講 師

自己肯定感を育む子育て・人育ちをサポート

一般社団法人HAT 代表理事 明橋 大二 氏

令和7年10月10日(金)に「令和7年度 岡山教育事務所管内 PTA等指導者人権教育研修会」をオンラインにて開催しました。

全国的に増加傾向にある“不登校”の子どもたちへの理解や関わり方について、医学的な知見や事例等を交え、参加者が子どもたちと関わる上でのヒントやきっかけが得られる内容を伝えていただきました。



～ 研修会資料より ～ (一部抜粋)

1. 不登校とは

- ・子どもにとって学校という環境が「合わない」状態。
- ・子どもの状態が関係していることもあれば、
学校的环境が関係していることもある。
- ・一番大切なことは、それぞれの子どもに合った学びの環境を整えていくこと。
- ・しかし現実にはそのような選択肢はまだ限られているし、そんな中で、学校に行けなくなって苦しむ子どもがいて、親がいる。
→支援が必要。

4. 不登校になったいきさつについて

- ・ただ、不登校になったいきさつについて、考えることは、必ずしもマイナスではない。
→もし現在にも影響していることがあるなら、それを取り除くことが子どものつらさを軽減することになるかもしれない。
→取り除くことができないとしても、少なくとも子どものつらさを理解する助けになる。
- ※ただ、安易にこれが原因だと決め付けないこと。
無理に子どもを問い詰めないことが大事。
(多くの子どもは語れない)

9. 不登校状態をどう理解するか(まとめ)

- ・オーバーヒート、凍りつき反応、いずれにせよ、生体の防御反応であり、生理的な反応
→人間が生き物として獲得してきた、心身を守るためのメカニズム。病的なものではない。
→そのような生体のメカニズムを持った(しかも多様な)人間がいることを前提に、環境(学校環境)を整えていくことが必要。
(高齢者や障がいのある人が生活することを前提にエレベーターや交通機関を整備していくように)

11. 不登校への基本的な対応

- i) 学校へ行く行かない、教室へ入る入らないだけにこだわらない。
本人の心の回復、心の成長の方がもっと大切。
- ii) 基本的な方針
 - a) 疲れている子どもを、これ以上疲れさせない。
傷付いている子どもを、これ以上傷付けない。
不安な子どもを、これ以上不安にさせない。
 - b) 肯定的にとらえる。

16. 子どもが安心して通える学校とは

- 子どもが...
- ・子どもたちが望む学校のあり方に関して意見が言える
- ・校則や学校行事について子どもの意見が取り入れられる。
- ・自分の特性に合った教育が受けられる
- ・暴力やいじめから守られる
- ・人格が否定されるような被害を受けない
- ・適切な環境(清潔、気温など)を提供される
- ・安心して友達と出会い、遊ぶことができる
- ・出自、宗教、貧富、性別、障がいの有無に関わらず、平等な一員としてどんなサービスも受けることができる

19. 不登校の親のサポート

- 2) 不登校の親を支えるために
 - i) まず、ここまで、子どもを支えてきた親への敬意、ねぎらいの気持ちを持つ。
 - ii) 肯定的に伝える。
 - iii) 親の会
 - iv) 親もまた自分を大切にしたいと伝える。
(飛行機のマスクの瞥え)



